

要 請 文

2021.2.21

内閣総理大臣 菅義偉 殿

現地報告とパネルディスカッション

コロナ禍・コロナ後の世界と辺野古新基地反対運動

参加者 一同

今、沖縄ではコロナ禍、特にキャンプ シュワブでのコロナ感染クラスターの発生にもかかわらず、辺野古新基地建設工事は中止されていません。連日、大量のトラックが資材や生コンを搬入し、海上では土砂貯留のための大型船を停留させて、埋め立て工事を加速させています。そして基地ゲートからは、米兵は自由に出入りしています。沖縄県民の命は、基地建設と米兵の行動の自由よりはるかに軽んじられています。

また、1月24日、陸上自衛隊と米海兵隊が、キャンプ シュワブに陸上自衛隊の「水陸機動団」を常駐させることで2015年、極秘に合意していたことが報道されました。辺野古新基地は、宮古、石垣、与那国に配備された自衛隊と一体となり、対中国の「第2の沖縄戦」の拠点として位置づけられていると考えます。

昨年2月～6月の工事停止中に「ジュゴンの鳴音らしき音」が大浦湾で確認されました。しかし防衛省はこのデータの公開を拒んでいます。ジュゴンが生きるサンゴ礁生態系は、地球環境全体の保全にとっても極めて重要な生物多様性のホットスポットです。これを守ることは、人類の生存にとっても重要です。

最後に、防衛省は沖縄県南部の土砂の、辺野古埋め立への使用申請を沖縄県にしています。沖縄戦で亡くなった多くの住民の骨が眠っている土砂を戦争のための基地建設に使うことは、亡くなった方々をもう一度殺すことです。沖縄県民の尊厳を根本から踏みにじるものであると思います。

私たちは、コロナ禍は福祉、医療より基地建設を優先し、格差と貧困を世界中で拡大してきた、現在の社会システムから発生したと考えます。だからこそ、コロナ禍の収束も、その後の世界も、基地と戦争がなく、格差と貧困を克服し、自然と共生する社会を民衆自身がつくる営みの中で可能になると考えます。

辺野古新基地建設を止め、沖縄県民の命と尊厳を守り、辺野古・大浦湾の自然を守る民衆の行動は、その営みそのものです。

政府が人間の命と尊厳より基地建設を優先し、自然環境を破壊して恥じない今の政策を根本的に転換することが、次の世代に手渡す未来を作ることになります。

沖縄県の玉城デニー知事は、今後、沖縄防衛局の設計変更申請を不承認にする見通しです。私たちは、不承認発表後から1週間、「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会」の呼びかけにこたえ、デニー知事を支えるアクションを起こす予定です。政府の政策転換こそいま求められています。

以上より私たちは、日本政府・内閣総理大臣 菅義偉 殿に以下を要請するものです。

記

1. 辺野古埋立て工事を直ちに中止すること。基地建設予算をコロナ感染対策にまわすこと。
2. キャンプ シュワブはじめ、コロナ感染クラスターが発生した米軍基地からの米兵の外出を禁じるよう在日米軍に申し入れること。米兵の外出禁止に関して、実効性のある措置がとれるよう、日米地位協定の改定を米政府に申し入れ、交渉を開始すること。
3. 陸上自衛隊と米海兵隊の辺野古新基地共同使用に関する密約を公開すること。宮古、石垣、与那国島への自衛隊配備を中止すること。
4. 「ジュゴンの鳴音らしき音」のデータを公開すること。土砂運搬船の夜間航行を中止すること。世界自然保護連合の提案にしたがって、ジュゴンの調査を速やかに実行すること。
5. 沖縄県南部、糸満市と八重瀬町からの埋め立て土砂採掘計画を撤回すること。

以 上